グエル公園

MUMBA MUSEU D'HISTÒRIA DE BARCELONA

イの人格は2つの側面から定義することができます。1つ目 的な彼の様式と物質の技術と理性的な一面です。彼は が精通していました。一方で超越的な考えの持ち主でも 数的な内容のたくさん詰まった作品を作りました。現代的)建築と間逆の流れをくんでいます。

テムを設置したりしました。しかしこれらは同時にそれ以上 イは実用的な解決策を講じる計画をしました。例えば住民 で陸橋や道を設置したり、各区画を定義したり、水の汲み でした。完全に芸術作品の域に到達し、野心的であり、自 **乳の境界線を取り払い、神の創造物とも言える芸術を作り**

解していました。2人は将来の複合都市住宅の様相や構成 スト教、カタルーニャの伝統に基づいたグエル公園の世界 **養と宗教への深い信念があり、カタルーニャ人としての愛** イメージについて深い議論を重ねました。そして古代ギリシ R方法を多様に生み出しました。グエルとガウディは人文 ど・グエルは、当時のどんな人々よりもガウディの建築セン ても強く持っていました。 公園は、芸術的な評価以上に20世紀の夜明けにバルセロ ぎを牽引したエリート達の能力と願いを表した野心的で素 表現の1つです。



しま徴的な見所をご案内しています。また公園内の標示もご覧いただき、 このガイドは、グエル公園を各自で見学できるように、 ご見学されることをおすすめします。

ラ・ナトゥーラ広場 ▼サン・ジュゼッブ・ダ・ラ・ムンターニャ大道リ ・ギロシ下部の

ネーター:カルマ・ガルシア・ソレー (バルセロナ市歴史博物館)

カレジットテキストとイメージの著作権は、作者、関連諸機関に帰属し クレジットバルセロナ・ダ・セルベイス・ムニンシバルス

ンフォメーションとお問い合わせ: parkguell@bsmsa.cat **購入中のエラーとグループ見学に関するお問い合わせ**:

こ他もむのメーラアドフス











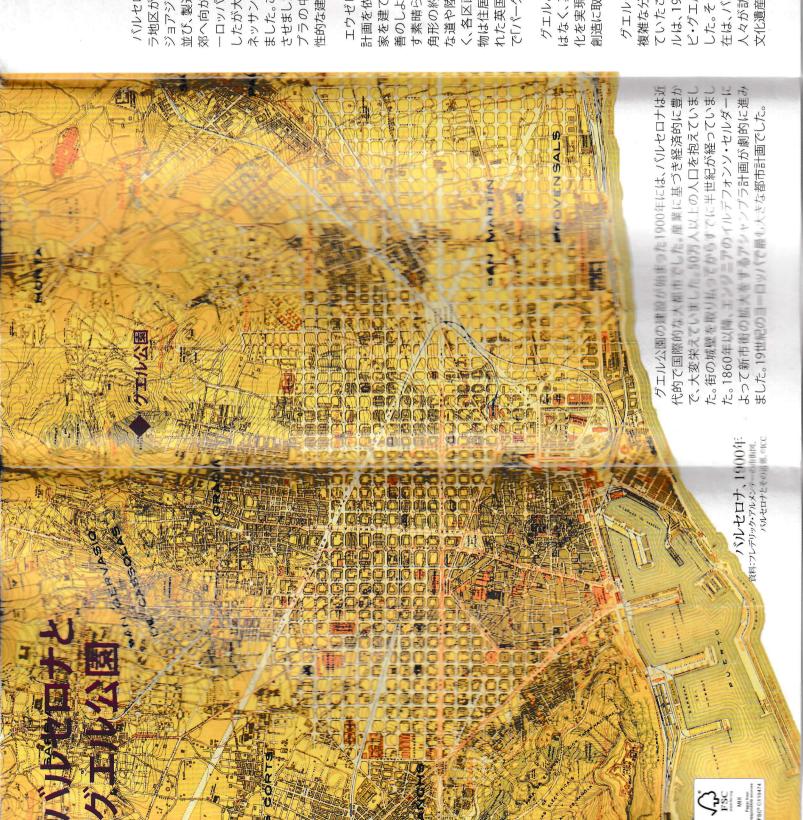












バルセロナの拡大は19世紀半ばから急速に進み、アシャンプラ地区が平地に広がっていきました。街の中心は台頭したブルジョアジ達の中心地となりつつありました。彼らの邸宅が立ち並び、製造業に従事する大衆的で産業的な特徴を持った街の近郊へ向かって都市化が進みました。1888年の万国博覧会はヨーロッパそして世界に産業大都会、社会的な問題は多くありましたが大変ダイナミックな芸術性のあるカタルーニャ民族のルネッサンスが生まれた場所としてバルセロナの勢いを知らしめました。こうした環境は新たな芸術様式と都市のあり方を発展させました。これこそがモデルニスムの成功した理由で、アシャンプラの中心地には、アントニオ・ガウディのような大変個性的な建築家の作品が非常に際立っています。

エウゼビ・グェルはガウディに、裕福層のための新興住宅地計画を依頼しました。禿げ山として知られていた地区に大きな家を建てるという計画でした。そのロケーションはこれ以上改善のしようがないくらい健康的で、海とバルセロナの街を見渡す素晴らしい景色が楽しめます。この新興住宅地計画では、三角形の約60の区画を造る予定でした。地形に合わせた複合的な道や陸橋、階段を張り巡らせました。工事の条件は大変厳しく、各区画には6分の1の建物しか建てることができず、また建物は住居用のみの建物が許可されていました。グェルは厳選された英国風のコンデミニアムを作りたかったので、名前も英語でいパーク・グェル」としました。

グエルとガウディの関係は単なる芸術家とパトロンの関係ではなく、真の友情の歴史であると言えます。ガウディは、都市化を実現させるために深く考えをめぐらせ、並外れた芸術的な創造に取り組みました。

グエル公園の工事は、初めの数年は良く進みました。しかし複雑な分譲条件や開欄的なロケーション、適切な交通が不足していたことから計画は不可能になりました。エウゼビ・グエルは、1914年に計画を中止せざるを得ませんでした。エウゼビ・グエルの死後、彼の遺産はバルセロナ市庁に買い取られました。そして4年後の1922年に公園は一般公開されました。現在は、バルセロナの人々の憩いの場であり、世界中から多くの人々が訪れる名所となりました。1984年にはユネスコの世界文化遺産にもなりました。

坂道とカザ・ララールトゥ

ブガデラの回廊は、螺旋状の坂道と大きく大胆な 形をしたスパイラルの柱まで続きます。それらが非 常にエレガントな構造を作り出していて、高さは2 段階あり、上部のバルコニーとつながっています。

カザ・ララールトゥの家は、グエル公園を創るため に購入した土地にありました。この建物はもとの伝 統的な様式を残し、ガウディは家族とエウゼビ・グ エルの住居のみを統合するために改修をしました。 1931年に公園は公共スペースとなり、ブルディリ・ レイシャック市立学校へと変わりました。







·プ、1908年©個人所有。/

ブガデラ(洗濯女)の回廊

非常にガウディらしい鉄の扉が庭から、カザ・ララールトゥと言 い農家の邸宅へ私達を導いてくれます。道の反対側上部の壁に固

れた柱廊が見えます。手を加えていない石で造られていて、大き

斜面に上手く統合されています。その外部は控え柱が並んでお

そのうちの1つはブガデラ(洗濯をする女性)として知られてい

かぬけない女像柱です。彼女は家事の道具を持っています。



洗濯女の回廊。1928年 IAAH. Arxiu Mas



アクセスサン・ジュゼッ プ・ダ・ラ・ムンターニャ 通り

グエル公園。 モニュメント ゾーンのご見学



入口とコンセルジュ

公園のメインの入口には、カ ザ・ヴィセスに由来する鉄の 門があり、これはガウディの 主要な作品の1つです。端と 端に2つの別棟があり、新興住 宅の管理人室となっていまし た。2棟とも大変個性的で、陶 器のトランカディで覆われて います。左側は、都市に訪れ るお客様を迎えしたり、待合 室とするためのコンセルジュ として発案され、現在売店・ 書店となっています。

またトランカディスは、ガウ ディの非常に愛した装飾方法 で、陶器の破片を表面に貼り 付けたものです。瓦礫や使わ れていないものを頻繁に使い ました。



グエル公園の入り口、1910年。AFB



門番の家

この新興住宅の門番の家は、グエル公園 のメインエントランスの右にあり、1901 年から1903年に建てられました。現在は バルセロナ市歴史博物館の一部となって います。質素なガウディの少ない作品の1 つで、実用的で簡素で、しかし形の豊か さがあり、特にカタルーニャの丸天井を 使用しています。



エウゼビ・グエル、階段の前で、1915年8月31日。BC

カタルーニャの丸天井またはレンガの丸 天井は、伝統的な建築技術で様々な形に 対応できる複数のレンガの層で作られた ものです。ガウディと他のモデルニスム の建築家達は、外見が良く、それでいて 建設的なものを利用していました。



入口 のよ てい にな 柱室 きま text

アクセスオリ

ガウディは、建築と自然建築と自然の対話をダイナミックで驚異的な 方法で成り立たせ、この2つの要素の持つ力をお互いに強めました。 これ以上ないくらいに様々な構造と素材、たくさんの象徴的な表現を 用いて、唯一の世界を創り上げました。

Fit

よ傾

るあ



ラ・ナトゥーラ広場

ギリシャ劇場、またはラ・ナトゥーラ劇場として知られ ている平地は、行事用の野外劇場として造られました。山 の形に統合した公園の他の場所と違い、山を削った場所に 広場があり、多柱室に支えられています。広場を囲んだ 波打ったベンチは、ジュゼップ・マリア・ジュジョールに よって1910年から1914年に設計されました。組み立て式の コンクリートブロックにトランカディスと円い柱の陶器破 片が装飾されています。

20世紀初頭には、スポーツ行事や気球の離陸地点、社会 的な様々な行事のための広場となりました。また最もよ く一般的にカタルーニャの大衆文化デモやカタルーニャ主 義者達の行事のために使われました。



グエル公園でのダンス。1911年11月 © Frederic Ballell, AFB

アクセスラ・ナトゥーラ広場



以前の市の苗木畑、日付不明。AHU



オーストリアの庭

住居を作る予定だった区画で、複 合住宅ゾーンとして考えられました が、1926年にバルセロナ市庁が公園と して開放した時には市立の園芸場と なっていました。70年代には、リュイ ス・リウドーによって花壇が作られ庭 へと姿を変えました。庭の名前は、オ ーストリア由来の木が寄贈されたこと によると考えられます。

グエル公園が集合住宅地だった頃に 建てられた2軒の家が遠くから見えま す。白い家はジュリ・バッリェベイの 造ったカザ・トリアスです。カザ・モ ストラ(モデルハウス)はフランセス ク・バランゲーの造ったピンクの家で す。



玄関前階段の上部、1934年

© Francesc Gassó. AMDG

コット通り

ユメント階段

にある広場から始まる階段は、上部が砦 になった2枚の凸状のこぎり壁に囲まれ **ドす。さらに右側は柱のように円い広場** っています。この階段は2つに分かれ、多 こたは柱のホールと呼ばれる場所へと続 け。ここは上部から中央軸に水を貯める の場所でもあります。

この階段にはたくさんのディテールがありま す。例えばグロテスクの美術様式のとっぴな 形を思わせるものは、住宅地を作る際に発見 された洞窟を想起させます。またトランカデ ィスで装飾された彫刻の要素が上部にあり驚 かされます。 まずカタルーニャの紋章の上に 頭が蛇の形をした噴水が見られます。続いて 色とりどりのドラゴン、またはサンショウウ オが現れます。さらに上部には3匹の蛇ような



多柱室の内部

このホールは天井に覆われた空間として考えられまし た。様々な使用方法がありましたが、新興住宅地の市場に なる予定でした。密度のある列柱の規則的なリズムをずら して3つの空間を造っています。中心が最も大きく、他の 2つはそれより小さくなっていて教会の身廊のようです。

天井は小さなドームになっていて、カタルーニャの丸天 井の技術により平らなレンガで造られ、トランカディスで 装飾されてます。キーストンのような天井パネルも使用さ れています。ガウディの協力者ジュゼップ・マリア・ジュ ジョールによって設計され、並外れた素材と形と色を使っ ていてまるでシューレアリストの前兆のようです。



多柱室の外部

この空間には天井があり、筋をつけた26本の柱がありま す。ドーリス式で伝統様式のエンタブラチュアの上部飾り があります。特徴的な軒蛇腹、突起の上には、大変強い対 比のある形と色をした白い陶器のベンチがある広場が設置 されています。

外部の柱はエンタブラチュアとともに斜めになってい て、波を打った動きは伝統的な構成方法と全く真逆の造り で、構造の役割に対する認識を強め、全体に強い特徴を与 えています。